



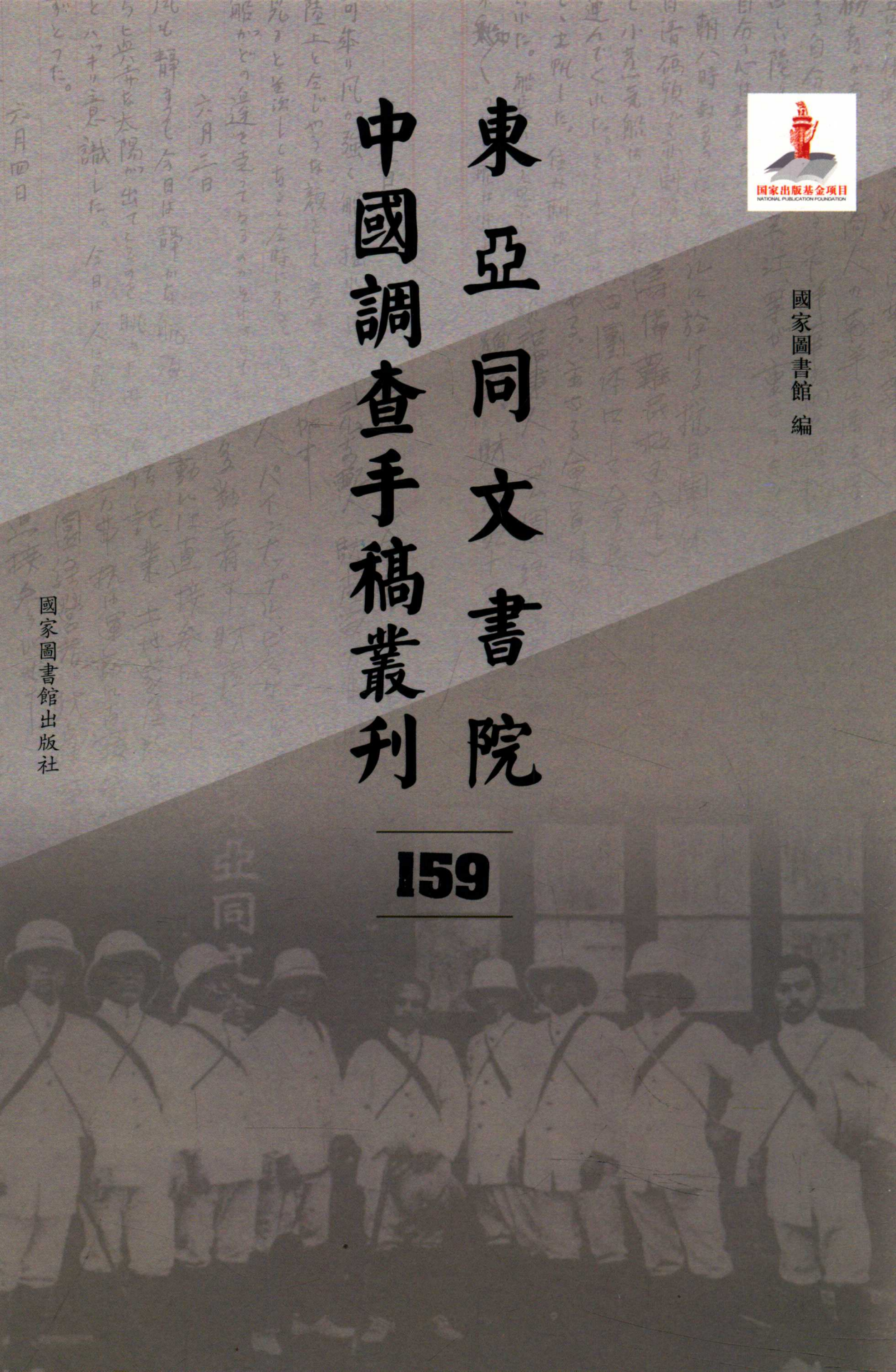
國家圖書館編

東亞同文書院

中國調查手稿叢刊

159

國家圖書館出版社



國家圖書館
編

東亞同文書院
中國調查手稿叢刊

159

第一五九冊目錄

昭和十四年（一九三九）調查報告（第三十六期生）

華興商業銀行

華興商業銀行 小西末一

..... 一

上海交通調查

上海交通調查 鹿谷良太郎

..... 一二五

河北省冀東地帶ニ於ケル棉花

河北省冀東地帶的棉花 岡幸雄

..... 二〇九

河北省東北部物產の出廻、取引狀況

河北省東北部物產的流通及交易狀況 高橋克明

..... 三一九

河北省東北部人口

河北省東北部人口 角田三郎

四四一

(河北省)貨幣金融狀況

(河北省)貨幣金融狀況

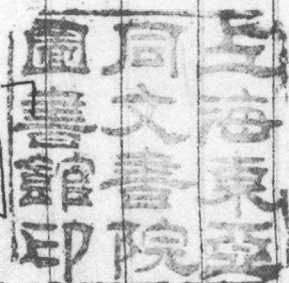
廣末治男

五一

和十四年度

大旅行報告書

小西末一



調查報告

第四十年甲組

小西末一

序言

新政權の生誕、楊子江市場の一部開放と我が
對中交通貨工作と關聯の深い事態が續出せんと
して居る、之に對する我が方の基本的對策^は必しも
歸一するものがあるとは謂はれぬ現状である。

而し、問題は困難であるが、何らかの形に於て是非解
決せられねばならない。私が事變後中支の恒
久的通貨工作の使命を荷つた唯一の存在たる
華興商業銀行を調査することも、あなかり徒
勞ではないと考へる所故である。幸にこの一小稿が
何うかに裨益する處あらば、幸甚これに可^いするもの

はない。

昭和十四年十二月廿三日

目次

第一章 華興商業銀行設の經過

第二章 華興商業銀行の開設とその性質

第三章 華興券の問題

第一節 華興券の性質

第二節 華興券の相場

第三節 華興券の発行高

第四節 華興券の流通地域と用途、及信託程度

第五節 華興券と四系通貨、法幣、亦三口

第六節 南北爲替交流と華興券

第四章 新政權と華興商業銀行

第一章 緒言

「華興商業銀行設立の経過」

昨年三月中支に維新政府が樹立されて以来、華興商業銀行が開設された本年五までに、既に一ヶ年余りの月日を閲して居る。こゝは中支に於ける通貨工作のなすべくならぬ困難性を裏書するものであつて、對策が考慮され始めてより、新紙幣発券銀行として華興商業銀行の開設に漕ぎ付けられる一ヶ有半こそ、日本の全エキスパートの智能を動員して悩みに悩み抜いた短か、この期間であつた。

中支に於ける法幣の地位は、口内通貨として、又貿易通貨として唯一のものであり、完全な幣制機構を

確立して居た、而も根本に於て蔣政權の管理統制
下に在る、これを蔣政權側から見れば、日本の占領
地域に於ける「人」と「物」に或る程度の支配力を持つ
ことになり、特に「物資」「労力」などを把握することの可能
は、その抗戦力の増加に極めて大きな役割を果す
ことになるであらう。之に反して我が方にとつては、所謂
新秩序の建設の癥症を為すばかりでなく、占領
地下の物資が法幣資金潤澤な重慶政府側、或は
亦三國側の手に入り易く、わが方が法幣資金を獲得
するには外貨に依つて先づ法幣を手に入ねなければなら
ない、如斯^是状態が他日揚子江一帯がフリーマーケット
として列國の競争下に置かれる場合、日本の対支貿易

にとつて由々しき打撃とならざるを得ないたう。こゝに
 新なる独立の幣制を要求する根本的原因があつた。

又中支に於ける日糸通貨として、八・三事変以来、日眞
 先に軍の使用によつて日銀券が登場し、續いて柳
 川兵團の杭州湾上陸に依つて、軍票が現れた。日銀
 券に就ては周知の通り、急激な円紙幣流入が續行
 された結果、円ノート流通のマキシムを突破し、円
 紙幣の氾濫、円価の下落となつて所謂「円對策」を繞
 つて困難な問題が續出するに至つた。軍票は、その後
 その機能が拡大されて、円ノートの回収と法幣の駆逐
 と、言ひ特異なる使命をも負わるに至り、昨年末より
 上海を除く中支一帯の占領地域に於つては一律に軍票

を行使することになり、更に最近十一月來には上海にも
流通（中支に於て）することになり、日銀券の使用は禁止せられるに至つた。
（軍票は漢口、南京、上海、蘇州、鎮江等大部隊の
駐屯する都市に主として散布せられて居り、總額は
大約一億圓に~~上~~ると謂はれて居る）

然し乍ら、華興券に先つて流通して居た軍票、日銀
券は飽くまで内通貨であつて、僅かに對日本の
貿易決済に用ひられるに過ぎない。この欠陥を補ふ
ことを第一義として、新なる通貨工作が必要とせられ
るに至つたのである。

要之、日本の對中南支政策の基調たる、市場
の確保即ち中南支貿易の把握を使命として生誕

したのが華興商業銀行である。而も前述の通り一ヶ
 年有余の陣痛の揚句設立されたのである。何故其の
 設立に伴つてかゝる困難が存在して居たか、それは抽象的
 ではあるが簡単に要約して次の三点となすことが出来
 やう(一)中支は蔣政權のお膝下であつて、戦前に於ける
 統治は完全に行なわれ、通貨部門に於ても、その管理
 通貨たる法幣は内通貨として又貿易通貨として
 唯一のものであり、深く民衆に根を下して居た事実
 である。(法幣と民衆の關係は口民政府幣制確立の
 十年の苦闘史を省みる必要があるが、此文には割愛し
 て單に、その結果として見られた状態を亦するに止めた)
 (二)中支は英口筆頭とする列国対支勢力の蟠居